

本学創立108周年式典



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞
発行兼 中原 泉
編集日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎025(267)1500



本学のシンボルマーク

二百余名が参列

本学の創立一〇八周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見で挙行された。あわせて特定非営利活動法人力ラII西アフリカ農村自立協力会代表・村上一枝先生への名誉博士号授与式も催された。

日本歯科大学創立一〇八周年記念式典は、創立以来の伝統である神式により執り行われた。式場の生命歯学部富士見ホールには、本学関係者など三百余名が参列し、午前十時三十分、司会の高橋孝幸庶務部長が開式を宣した。筑土神社の神職が祝詞の中で本学の沿革を朗々と奏上したのち、玉串奉奠にうつり、中原泉理事長、学長がホール壇上の神前に進み出て玉串を奉奠。参列者は一礼二拍手一礼をもって同拝した。参列者を代表して、中原泉理事長、藤井一維、湯浅太郎の各理事がおの神前に玉串を捧げた。



中原理事長の玉串奉奠にあわせて同拝する参列者

公 告

○学校法人日本歯科大学の理事を、次のとおり公告する。(任期：平成二十六年八月七日から平成二十八年八月六日まで)

- | | |
|-----|---------|
| 理事長 | 中原 泉 |
| 理事 | 中 原 貴 |
| 理事 | 沼 部 幸博 |
| 理事 | 藤 井 一維 |
| 理事 | 湯 浅 太郎 |
| 監事 | 高 橋 賢一 |
| 監事 | 佐 々 木 章 |

○学校法人日本歯科大学の評議員を、次のとおり公告する。(任期：平成二十六年七月三十一日から平成二十八年七月三十一日まで)

- | | |
|-----|--------|
| 評議員 | 中 原 泉 |
| 評議員 | 高 橋 慎一 |
| 評議員 | 羽 村 章 |
| 評議員 | 沼 部 幸博 |
| 評議員 | 関 本 恒夫 |
| 評議員 | 藤 井 一維 |
| 評議員 | 中 原 賢 |
| 評議員 | 近 藤 勝洪 |
| 評議員 | 倉 治 康男 |
| 評議員 | 有 泉 俊朗 |
| 評議員 | 富 田 武夫 |

おの神前に玉串を捧げた。撤饌、昇神を終えて神職が退場。中原理事長、学長は、本学創立一〇八周年を迎えて式辞を述べた(要旨二面)。

ついで近藤勝洪校友会長は、「校友会では、創立者中原市五郎先生の業績集『考証中原市五郎史伝』を編纂している。大学の全面的な協力と支援をいただき、間もなく完成する。あと二年たつと母校日本歯科大学は、創立百年を迎える。太平洋戦争をはじめ幾多の苦難を乗り越えて発展してきた。来たる百年に校友会としてどのような記念事業ができるか、検討している。ご期待いただきたい。

さらに、創立記念式典特別参列制度『ジュビリー15025』と呼んで

現地の人を指導し教育に協力して二十五年間にわたり活動している。先生は、十では数えきれない賞を受賞された。二〇〇一年の医療功労賞受賞式に私も参列したが、その時に『今いたいた賞状より賞金のほうがありがたい』と挨拶された。賞金の百万円があると、西アフリカの子どものために、マリリアの薬を何百個買うことができるという印象深い挨拶だった。

名誉博士号については十年前からお会いするたびにもらってくださるとお願いしてきた。学問的なことをやっているのではないと、固辞されていたが、今回ようやく受けていただくことになり、感謝無量である」と述べ、日本歯科大学名誉博士第十七号の学位記を手渡した。

つぎに村上一枝名誉博士は御礼の言葉を述べた(別掲)。

ついで永年勤続者表彰にうつり、三十年勤続十五名、二十年勤続十七名の氏名が読み上げられて表彰者は登壇し、中原理事長から代表に表彰状が手渡された。

表彰者を代表して奈良陽一郎教授(生命歯学部・接着歯科学)が表彰された。奈良教授は、「古今東西、文系理系を問わず全世界の大学には、教育、研究、社会貢献の三つの役割が求められている。社会貢献という意味では本学は医療系の大学なので、患者国民に対する医療の提供が該当するだろう。厚生

労働省あるいは文部科学省がめざしている国民の期待に応える医療人の育成、具体的には歯学教育モジュールコアカリキュラムの導入という、学生に對して一定レベルまで導きが求められる」と思う。

研究部門では、本学においても鋭意研究されている発生再生医学、そしてナノテクノロジーは、医療機器や歯科材料の分野で先進的な研究がなされている。本日表彰を受けた私

は、薬を買うお金もない、本当に何もなくて悩んだ。しかし初心を貫かなければ、開業をやめてマリに行った意味がないと思った。やはり私が入りたいところは、何もなくて行くことだ。思い、村に入った。村民調査をして、医療だけにこだわってはいけなくて、医療をする前にすることがたくさんある。食べ物、寒いから着なさいといつも着るものは売っていない、買えない、作れない、手紙を書いて頼まない、紙も無い、ペンもない。野菜を植えて栄養

あるのだよと言っても、植え方を知らない、種もない。しかし女性として裁縫したり、おしゃべりするところが普及に役立つ。あつという二十五年だが、まだまだ水がない、字も書けないという人は非常に多く、私たちの仕事は一隅を照らす光ではない。そういう基本的なことから支援し続けて、今日に至った。大学に何も貢献しない名誉博士号を頂戴しておがましいが、大学で衛生のことなど、基本的な事柄を学んだことが活動につながったと思う。

農村自立に支援を 村上一枝



大学に何の貢献もせず博士号を頂戴する、それも神様の前で頂戴するといふのは、もつと頑張れと言われているような気がする。現地の活動も人の入らない、地方で困っている地域で行ってきた。もちろん電気もガス



表彰をうける30年、20年の永年勤続者たち

中原泉理事長・学長 式辞

「天の時、地の利、人の和」という諺がある。この中で本学は、特に地の利について運が強いというお話をしたい。

明治四十二年に創立者の中原五郎先生が、富をしなければいけない。戦後に男子寮が長い間建っていた。昭和三十一年になり、私もがお願いしたわけでもないのに、突然東小金井駅がグラウンドのすぐ脇につくられた。東小金井の階段を降りた駅前角地に、本学のグラウンドが位置してしまつた。現在、その角地に多摩クリニクスが建っている。



竣工したサクラパーク(左側に本学がある)

た。その土地千五百坪を購入した。角地なので高かったらうし、よくあの一等地が手に入った。先人の努力に頭が下がる思いがある。将来のために買われたと思うが、それから三十年後、昭和六十一年に駅前附属病院を新築し移転した。

昭和四十五年に新潟歯学部増設計画が決まり、県立工業高等学校跡地を一坪二万円で購入し、旧市街地の外れにはあるが一等地で、二万坪だから四億円で手に入ったという、夢みたいな話だ。その当時新潟県内には、四年制の大学は新潟大学一校しかなかった。新潟県としては大学を誘致したいという気持ちが非常に強かつたのだらう。

最近になって、本館から歩いて十五分ほどの円周の中で、五百坪程度の空地がないかと探していた。小さな土地は近くの大学などが買いついて、千代田区に大きな空き地はないということだ。しかし半年もたないうちに、神楽坂の上の大久保通りに面した筑土八幡神社の並びに四百五十坪の土地がみつかった。神楽坂の交差点の四つ角まで、歩いて数分の場所である。マンション業者が、三十階建てのマンションを建設し、販売しようと計画したが、着工前に倒産してしまつた。そこで本学で

天の時、地の利、人の和



…先人の慧眼に感謝したい

は、三分の一以下の値段で入手することができた。こちらの本館、駅前、そして神楽坂上と三カ所があれば、将来的に如何よの計画も可能だ。

それから五月二十九日に飯田橋駅西口のビル二棟の竣工祝賀会があり、私も招待された。西口の改札口を出ると、目の前に大きなビルが二棟建っているの、ギョツ

と見る人が沢山いると聞く。見ると同じ高さだが、駅側のビルが飯田橋グラン・ブルームというビジネス棟で三十階、奥が四十階のパークコート千代田富士見タワーというマンション棟である。駅前、警察病院から通信病院の手前までの一帯が、サクラパークという愛称で再開発されたのだ。ビジネス棟は一日七千人が

出入りし、マンション棟は五百所帯二千人が入るといふ。まず私の考えたのは、患者さんが増えるということだ。十月にはスパーやテナント等二十五店舗が入り、駅前の病院の教職員や学生たちにとって非常に便利になる。

本学の病院の右側は開口の改札口を出ると、目の前に大きなビルが二棟建っているの、ギョツ

側、駅に接して「セントラルプラザ」という大きな建物が建ち、駅前を中心に本学附属病院の周りの環境が一変したといつてよい。

針が定まってくると思う。また飯田橋東口も再開発法により、条件がつくが、地権者にとって大変な口ゲーシヨンになるだろう。地下鉄の南北線と東西線が交差するの

かどうかということ、地域住民との協力が大切だという二点を十分に認識した上で、今後対応し

ていきたい。このたび準備委員会に私どもの大学も参加した。サクラパークの準備組合結成は、二〇〇四年竣工まで三年間、準備組合から竣工まで十年ほど、再開発としては大変早いほうだと言われている。三番街区の広さはサクラパークの半分くらいなので、地権者の話し合いが進めば、早い時期に方

針が定まってくると思う。また飯田橋東口も再開発法により、条件がつくが、地権者にとって大変な口ゲーシヨンになるだろう。地下鉄の南北線と東西線が交差するの

かどうかということ、地域住民との協力が大切だという二点を十分に認識した上で、今後対応し

ていきたい。このたび準備委員会に私どもの大学も参加した。サクラパークの準備組合結成は、二〇〇四年竣工まで三年間、準備組合から竣工まで十年ほど、再開発としては大変早いほうだと言われている。三番街区の広さはサクラパークの半分くらいなので、地権者の話し合いが進めば、早い時期に方

日本歯科大学歯学会 12月ウィンターミーティング開く

「歯科における研究と臨床のEBM共有に向けて」シンポジウム

- 青木春美(歯科理工学准教授)
五十嵐勝(歯科保存学)
堀徹也(用度管理)
齋藤真佐夫(ITセンター)
寺島秀治(放射線科)
古俣弥枝子(看護科)
渡邊毅(歯科理工学)
今井千晶(中央検査科)
高橋建作(歯科理工学)
池田利恵(歯科衛生学)
市川基(歯科理工学)
青葉孝昭(病理学)

- 永年勤続者
倉淵眞悟(解剖学II)
奈長陽一郎(接着歯科学)
砂田勝久(歯科麻酔学)
宮坂平(歯科理工学教授)

今回の学会のメインテーマは「これから百年の歯科医学教育を考えた」で、水谷准教授の演題は「日本歯科大学新潟病院内における臨床実習での医療安全教育」。臨床実習では学生が行う医療行為により患者に対する過誤や事故、また針刺し



懇親会場で表彰額を手にする水谷准教授(左から2人目)